

## 第2章 巢山古墳を取り巻く環境

### 第1節 地理的環境

広陵町は、奈良盆地の中西部にあり、東西約4.5km、南北約6.0kmで、総面積は16.3km<sup>2</sup>ある。東は三宅町および田原本町、南は橿原市および大和高田市、西は香芝市および上牧町、北は河合町と接している。町の東部には平坦地が広がり、西部は逆に丘陵地帯となっている。町内を縦断して高田川と葛城川、曾我川が北に向かって流れる。

奈良市からは直線距離で約20km、近畿圏の中核都市である大阪市から約30kmの位置にある。町内唯一の駅である近鉄箸尾駅は急行や特急の停車駅でないものの、道路網が発達したため大都市近郊の良好な環境の住宅地として近年まで人口増加が続いた。平成30年(2018)には微減傾向に転じたものの、町としては奈良県で最も人口が多い。



図 2-1 位置図 [出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]

広陵町は、箸尾駅を中心として発展してきた北部地域、靴下産業が息づく西部地域、川の周囲に整然とした田園風景が広がる東部地域、閑静な住宅街が広がる真美ヶ丘ニュータウン地域と、大きく4つの地域に分けられる。築山古墳の位置する西部地域には多くの古墳が点在し、歴史ロマンあふれる景観が広がる。

四季の花と緑が美しい町民憩いの場である広々とした敷地の竹取公園、真美ヶ丘ニュータウンを南北に走る緑豊かなかつらぎの道（遊歩道）もあり、暮らしの中で歴史と自然を感じることができる町である。また、かつて広陵町は綿花栽培が盛んな地で「大和木綿」の産地として知られ、明治末期には機織りに代わる仕事として靴下製造を始め、日本一の靴下生産地として奈良県の中核産地となるなど、町の個性を生かした産業が発展してきた町でもある。

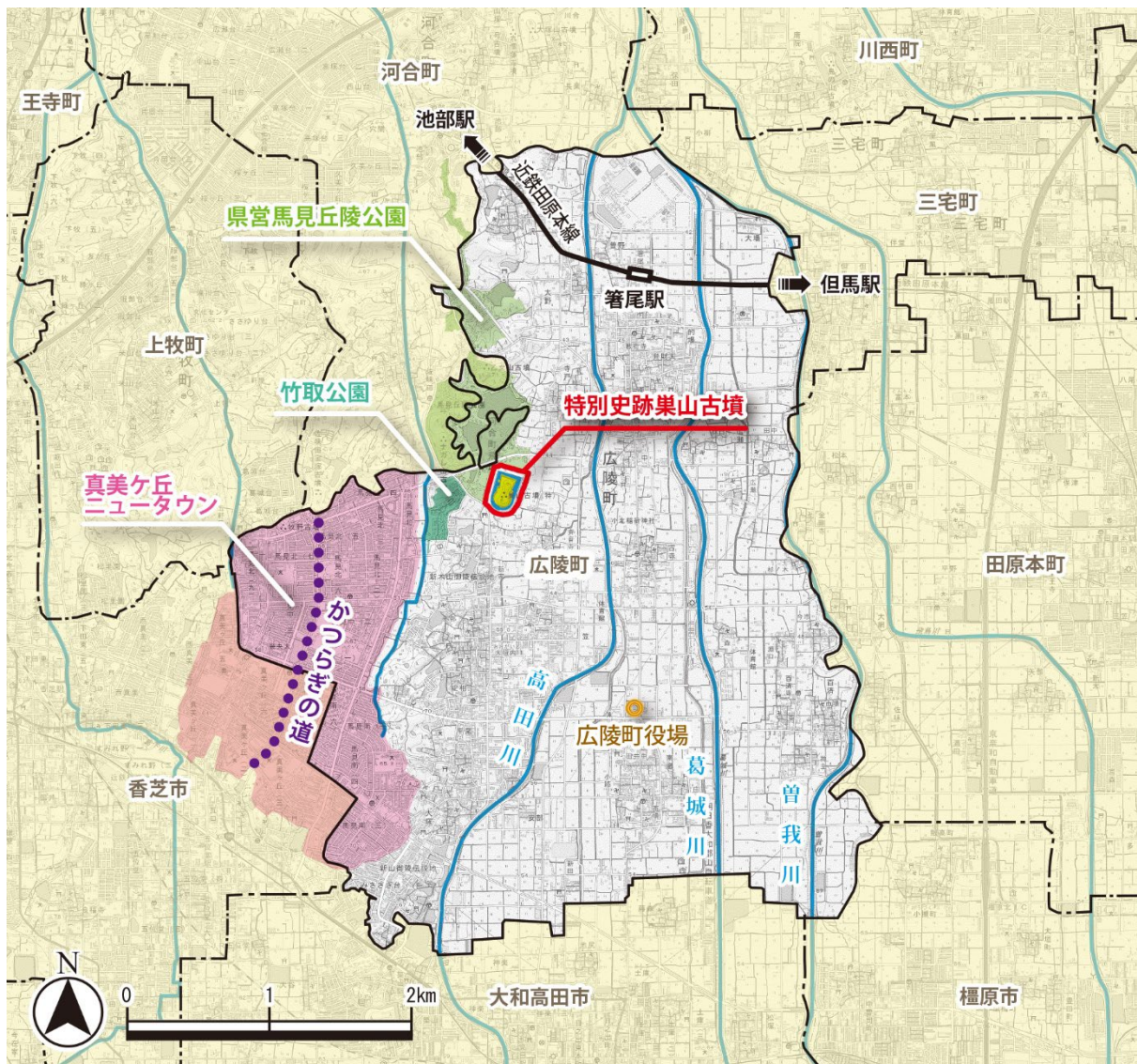


図 2-2 町域図 [出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]

## 第2節 自然的環境

### 1. 気候

山地に囲まれた奈良盆地に位置するため、近畿中部特有の内陸性気候であることから概ね温和であるが、気温は寒暖の差がやや大きく、降水量が少ない。このように奈良盆地は年間降水量が約1400mmと少ないため、農業用水の確保のために多くのため池が作られており、築山古墳の周濠の水も灌漑用水として古くから利用されてきた歴史がある。

広陵町の最寄りの観測所である奈良地方気象台における2025年と1985～2024年の平均値を比較したものを下図に示す。2025年の降水量は、過去40年間の平均値と比べて5月と6月がとくに多く、1～2月と11～12月は逆に少なかった。気温は7～9月がもっとも高く、2025年のこの期間の平均気温は25℃を超えている。

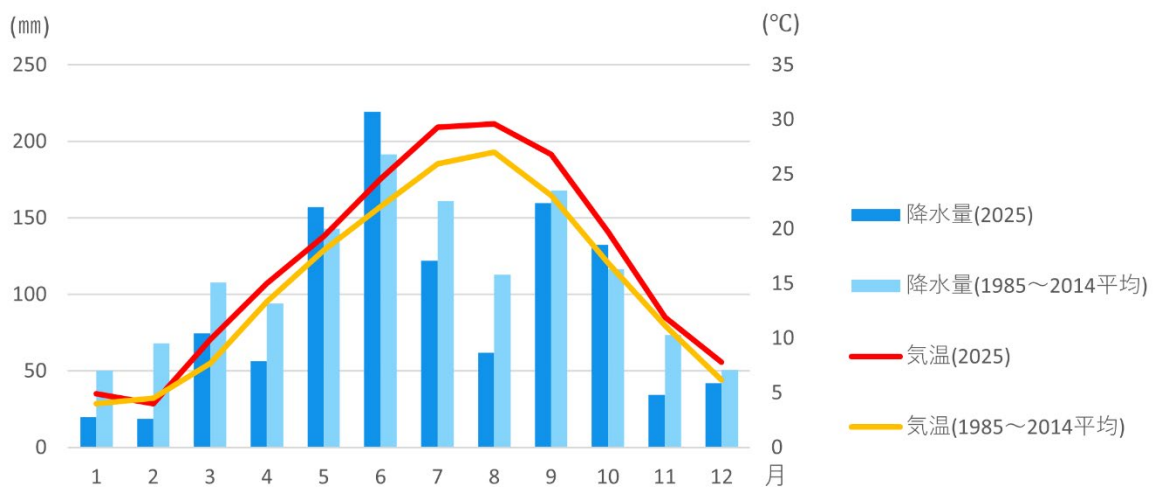


図 2-3 2025 年の奈良市の気温と降水量

[出典：気象庁ホームページ]

### 2. 地勢

町域の中央部から東部にかけて農地を中心とした平野部が広がり、西部一帯は起伏の緩やかな馬見丘陵となっている。馬見丘陵の東側に点在する古墳及び池沼等により形成される県の代表的な景観であることから、奈良県自然環境保全条例に基づき景観保全地区に指定されるなど、歴史と自然が融合する広陵町を代表する景観となっている。

水辺環境として、町内には高田川、葛城川、曾我川などの一級河川のほか、多くの河川が流れている。これらの河川は、雨水の排水だけでなく、農業用水としての機能や、住民の憩いの場となる親水空間や遊歩道として機能するなど、住民の生活に身近な存在となっている。

広陵町の地形は、奈良盆地の一角を占める東部低地と、馬見丘陵の一部である西部丘陵に分けられる。東部低地は、高田川と葛城川、曾我川の堆積地である。高田川は、葛城山の東北麓から流出し、大和高田市街地の西を流れて本町域に入る。葛城川は金剛葛城山地の東麓から流出し、御所市街地を流れて本町域に入る。曾我川は、竜門山地北麓から流出し、橿原市域を流れて本町域に入る。これら三つの河川は直線状に北流しているが、かつては流路の変化を繰り返し、自然堤防の微地形を形成して曲流していた。奈良盆地は低平な河川合流地域であり、雨が降り続けると洪水を起こしやすく、特に浸水被害の大きかった昭和57年8月、平成7年7月、平成19年7月など、本町域もしばしば水害にみまわれた。

馬見丘陵は東西約3.5km、南北約7.5kmの洪積台地で、比高は30～40mあり南から北に向かって緩やかに傾斜している。丘陵には侵食による影響で多くの谷が形成され、樹枝状に発達している。

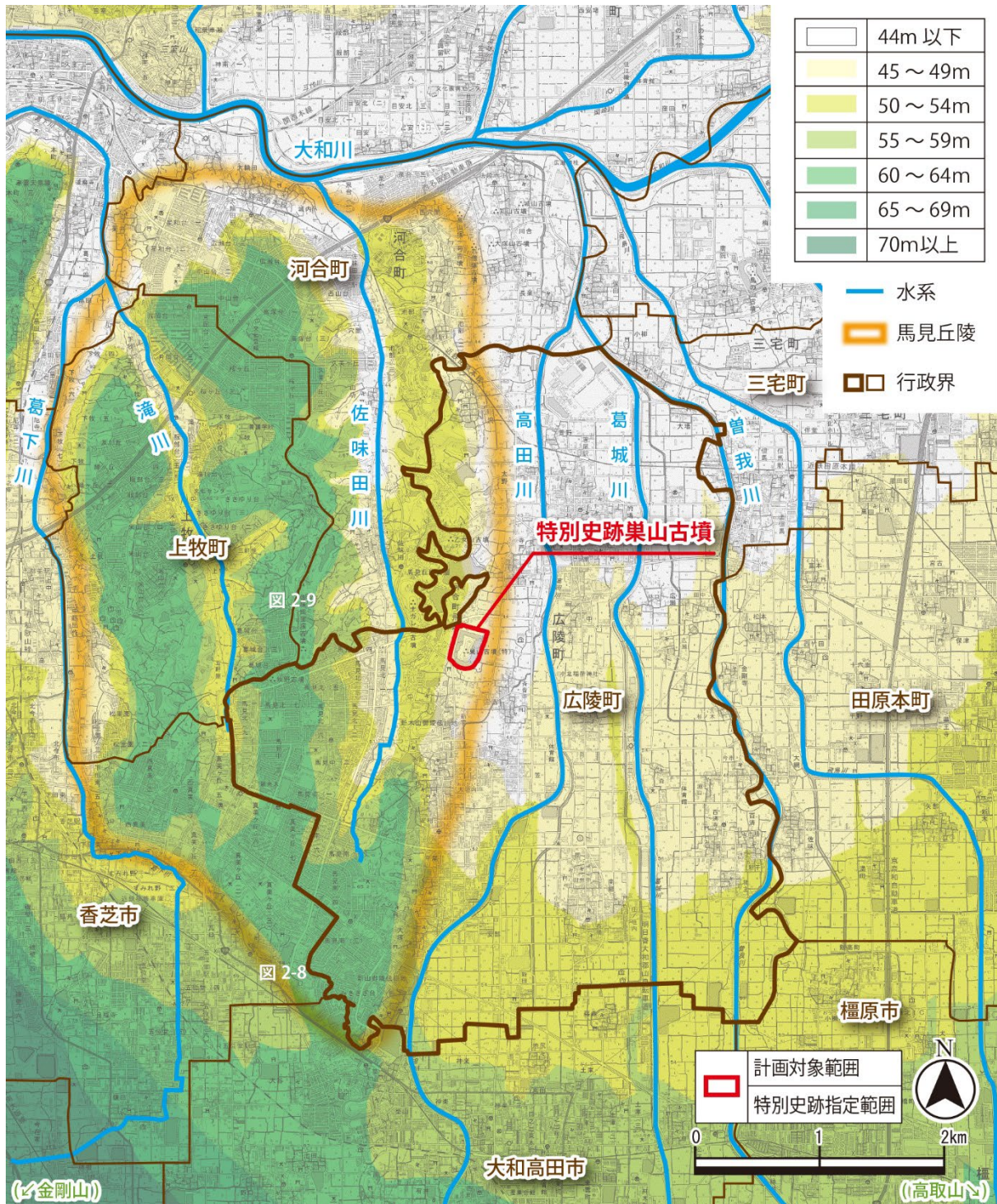


図 2-4 地勢図 [出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]

### 第3節 社会的環境

#### 1. 人口

広陵町の人口は、令和7年(2025)6月末日現在で34,933人、14,168世帯と県内の町では最も人口が多い。高度経済成長により広陵町の人口も増加傾向にあったが、馬見丘陵における住宅開発に伴い、昭和58年(1983)4月に真美ヶ丘ニュータウンへの入居が始まって以降、急激に増加した。平成28年(2016)には35,000人に到達し、以降大きな増減はなく横ばい状態であるが、世帯数の増加は続いている。

広陵町には5つの公立小学校と2つの公立中学校があり、令和6年(2024)現在在籍する児童数は2,164名、生徒数は917名である。

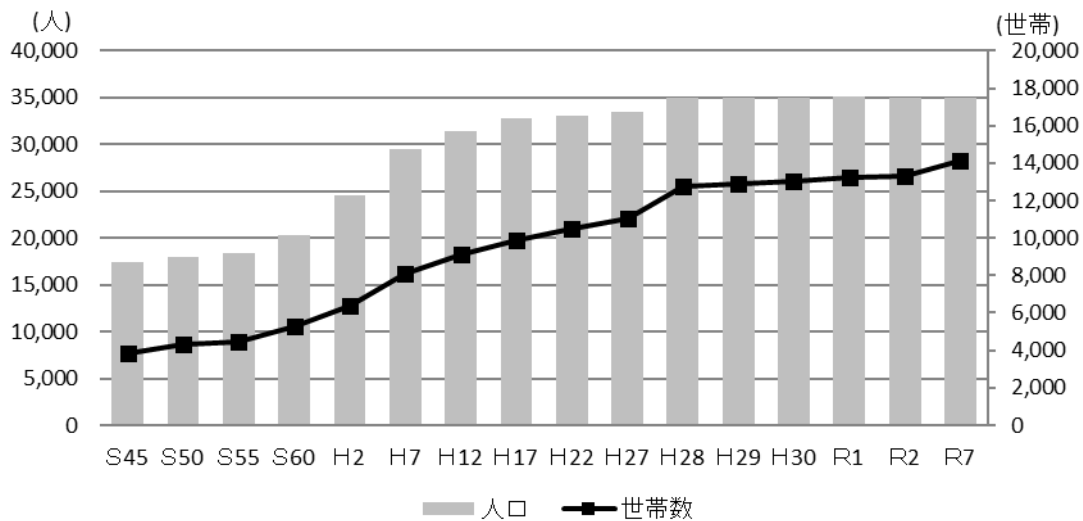


図2-5 広陵町の人口・世帯数の推移 [出典：【S45～H27】国政調査データ  
【H28～R7】広陵町ホームページの集データ]

#### 2. 道路・交通

広陵町は、奈良市中心部や大阪市内へは車や電車で約40～50分で到達できるなど、周辺都心部へアクセス至便な地にある。町の北部には町内唯一の鉄道駅である近鉄田原本線箸尾駅があるが、地区によっては最寄り駅が箸尾駅西の池部駅や東の但馬駅、また近鉄大阪線の五位堂駅・築山駅・大和高田駅・松塚駅となる。田原本線は上下それぞれ1日47本の電車が運行され、箸尾～西田原本を7分、箸尾～新王寺を15分で結んでいる。

地域幹線道は大和高田・斑鳩線(県道5号)、桜井・田原本・王寺線(県道14号)、町道の柳板・大谷線、一般県道の田原本・広陵線(県道112号)および中和幹線(県道105号)があり、近隣・広域市町村との連携を担うネットワーク道であり、また、町の拠点を結び、都市を支える骨格を形成する道路となっている。

また、町内には近鉄電車や奈良交通バス、町のコミュニティバスも運行しており、これらバスは真美ヶ丘ニュータウンを中心に五位堂駅や王寺駅、大和高田駅といった近隣市町へのアクセス手段としても運行されている。路線バスの一部撤退を受けて平成21年(2009)に運行を開始した乗合自動車「広陵元気号」は、北部支線・南部支線として運行を行っていた路線を令和5年(2023)6月末日で休止し、中央幹線のみとなった。同年7月1日からは予約型乗合バス(自家用有償運送)を導入しており、町内に設置した151か所の乗降場所を利用して町内の移動が可能である。5日前から予約が可能で、電話は平日8:30から16:30まで、専用アプリ「のるーと」では24時間、受け付

けている。

計画地と隣接する馬見丘陵公園や竹取公園は最寄り駅から距離があることから車でへの来訪を想定して大容量の駐車場を備えており、巢山古墳への来訪も大多数が車を利用すると考えられるが、遠方から電車やバスを乗り継いでへの来訪も可能である。

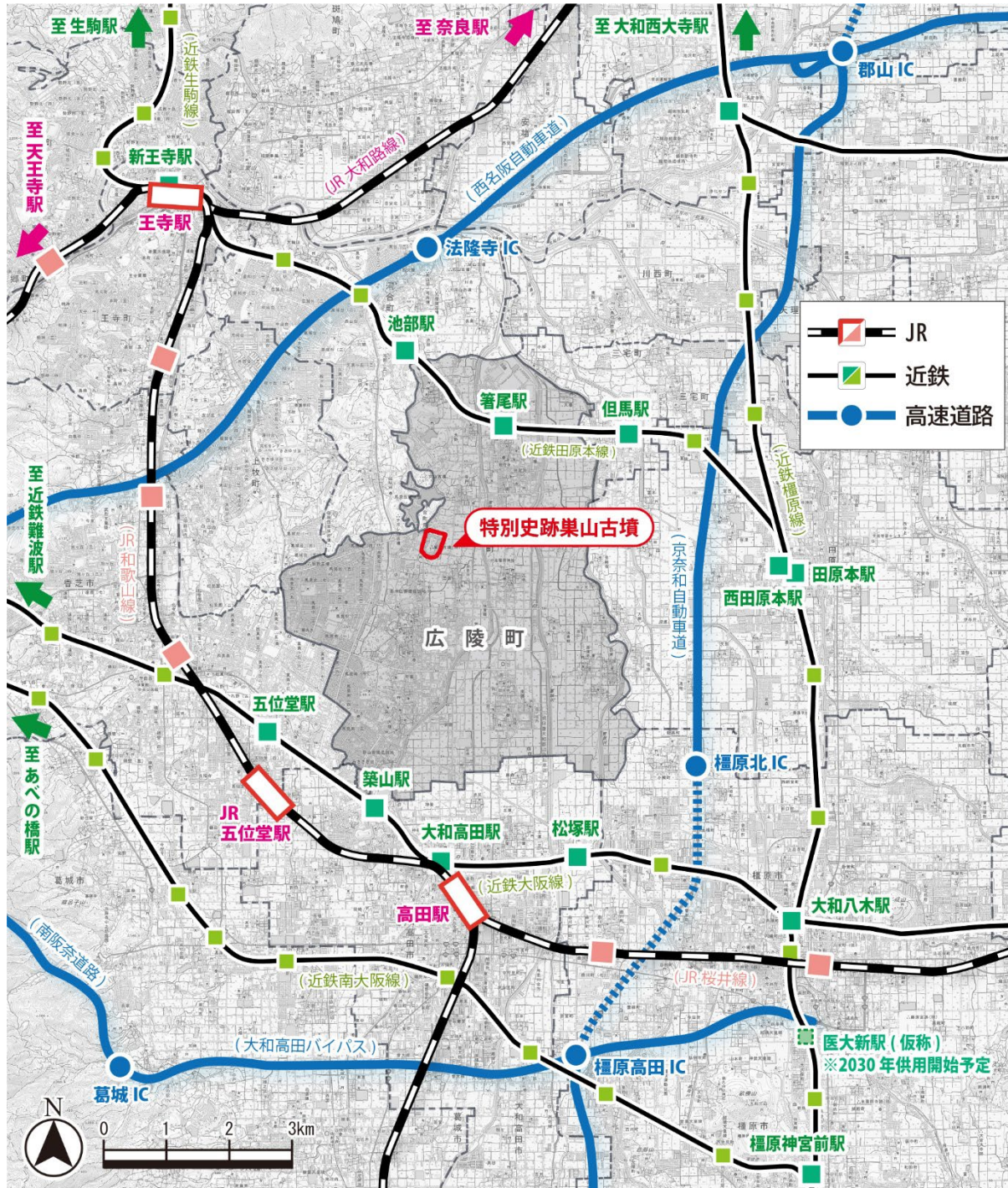


図 2-6 広陵町周辺の鉄道・高速道路等広域交通網図

[出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]



### 3. 土地利用

広陵町の土地利用は農地と宅地が中心である。農地は減少傾向にあるものの、市域の35%を占めている。その多くは田で町東部の河川周囲には整然とした田園風景が広がっている。一方、町西部の真美ヶ丘ニュータウン地域には閑静な住宅街が発展している。

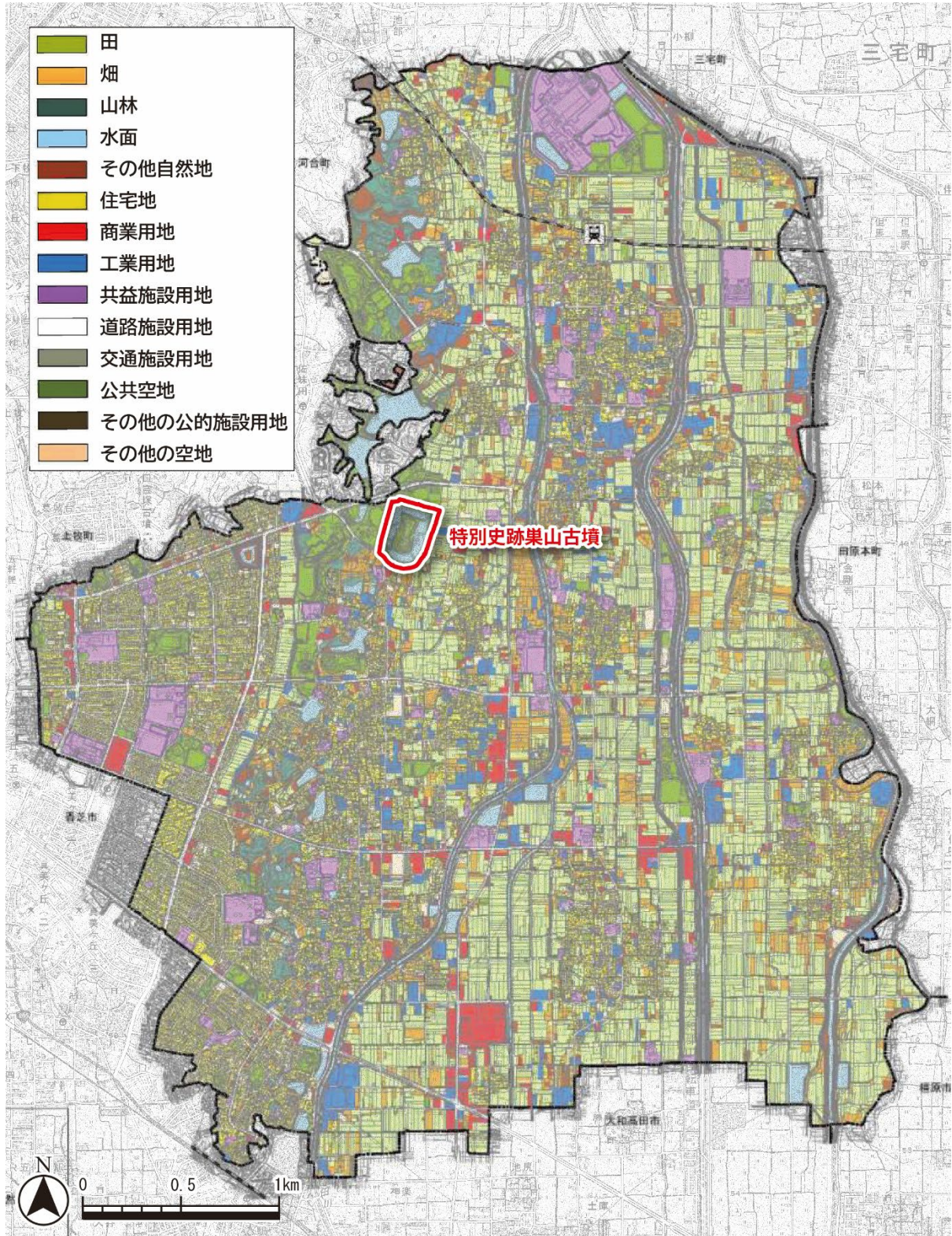


図 2-8 土地利用状況図

[出典：平成 26 年都市計画基礎資料を加工して作成]

### <吉野川分水>

広陵町の位置する大和平野(奈良盆地)は、年間降水量が少ないため恒常的な水不足となっている。この地域は昔から水不足に悩まされ、萱野では雨乞い地蔵を崇拜し、大垣内では専光寺の「太郎さん」と呼ばれる菩薩像を池に沈めて祈願をするなど、雨乞いの行事が行われてきた。

大和平野では古くから水不足を解消するために多くのため池がつくられてきており、現在も約4100か所が残っており、広陵町内にも70か所を超えるため池がある。江戸時代からの悲願であった吉野川から大和平野へ水を引く吉野川分水は、昭和27年(1952)から昭和62年(1987)の工期をかけて完成し、現在安定的に豊かな農業用水を確保している。水路は大和平野に張り巡らされ、広陵町もその恩恵を受けている。広陵町付近では、吉野川分水施設のほとんどが地下に埋められているが、巢山水槽(第5号分水工)があり、この分水工を通じて、水が周辺の水路(大字寺戸の上池・下池・河合町大字佐味田)に分配されている。巢山古墳の周濠はアシ池と呼ばれる古くからの農業用ため池で、現在も吉野川分水からの水を引き入れ、周辺の農地へと供給する役割を果たしている。

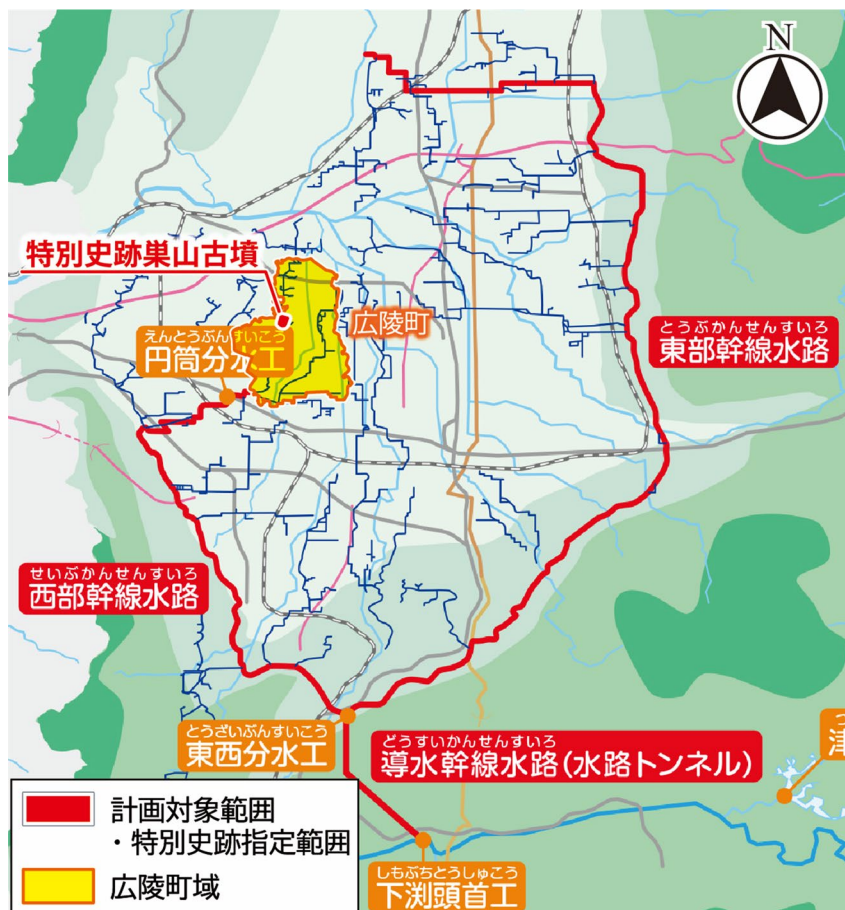


図 2-9 吉野川分水

[出典：『「吉野川分水」～豊かな水を求めて～』（奈良県）の掲載図面を一部加工して作成]

#### 4. 観光・レクリエーション

広陵町にはかぐや姫ゆかりの地である讚岐神社や、約300年続くといわれる地藏盆の立山祭りが行われる専光寺、弘法大師ゆかりの百済寺など、多くの歴史スポットがある。

多くの古墳が集中する「馬見古墳群」は、県営馬見丘陵公園として整備され、令和元年(1989)以降の年間来園者数は100万人を超える。馬見丘陵公園は、歴史ロマンあふれる景観が広がるとともに、季節の花々を楽しむことができ、またイベントの際に特設ステージが設けられる大型テントや大型遊具も備えている。隣接する竹取公園も遊具や広場、駐車場等を備えており、休日は親子連れでにぎわうとともに、秋に開催される「広陵かぐや姫まつり」には例年1万人を超える来場者がある。

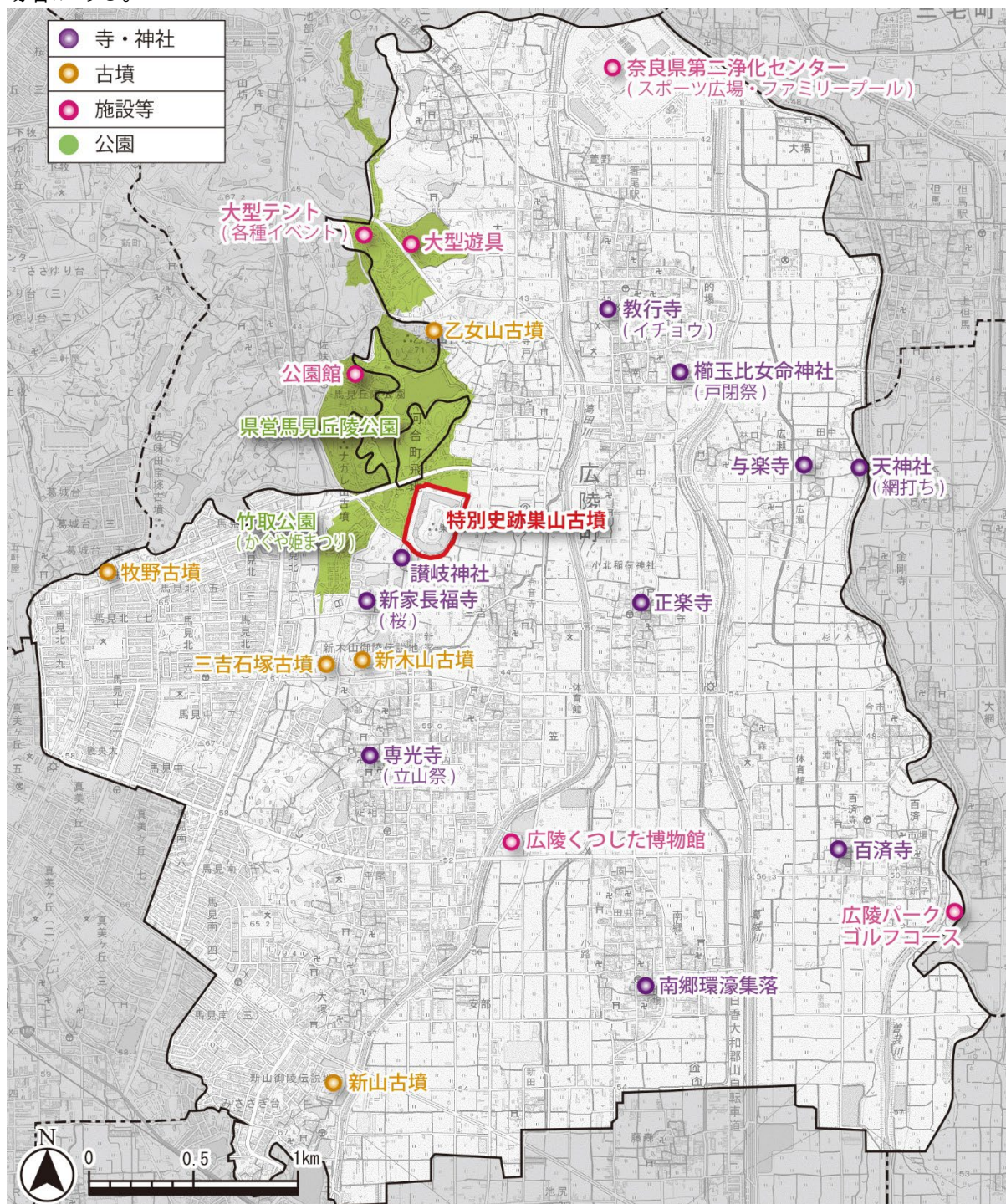


図 2-10 観光・レクリエーション分布図

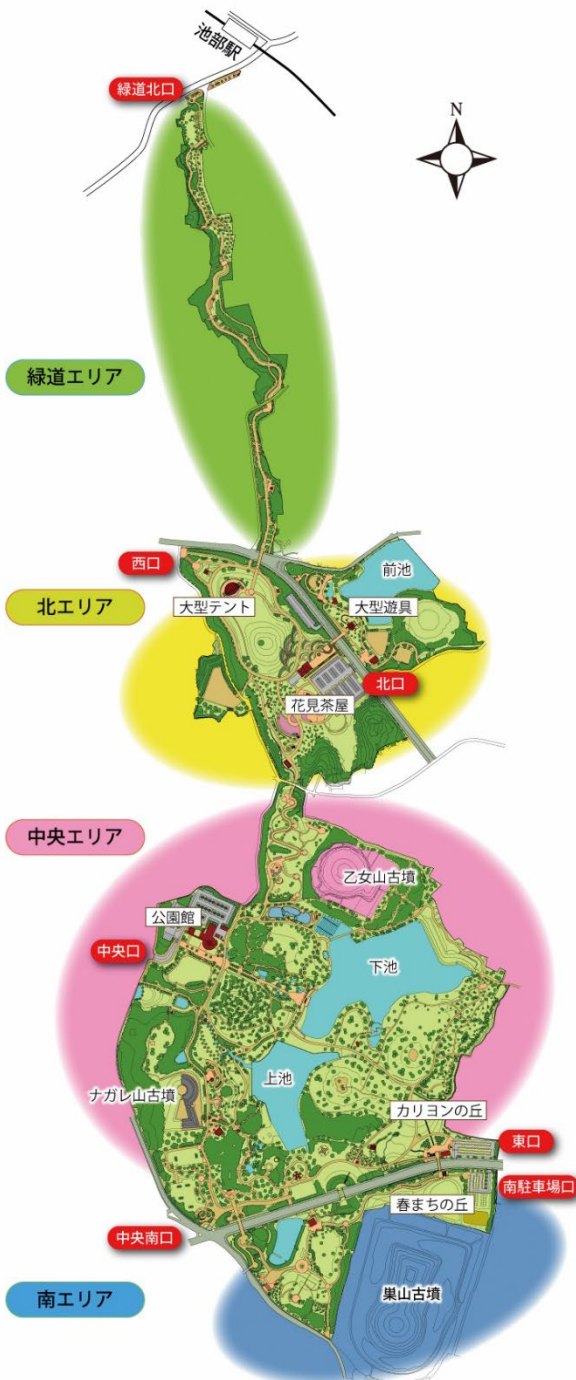
[出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]

■ 県営馬見丘陵公園

昭和40年代後半より馬見丘陵西部では真美ヶ丘や西大和ニュータウンなどの大規模宅地開発が始まったことを受け、奈良県は丘陵東部において開発行為から自然や古墳群を守るため「歴史と自然に囲まれた憩いの空間」を目指し、昭和59年(1984)度より公園整備事業に着手した。平成3年(1991)に10haを開園して以来、順次供用を開始して、平成24年(2012)6月の中央エリアおよび南エリアの一部開園をもって整備が完了した。公園内では整備された9基の古墳を見学することができ、1600年前の築造当初の姿に復元されたナガレ山古墳は頂上まで登ることができる。総面積は56.2haと広大であり、園内には計4か所、982台分の駐車場がある。令和2年(2020)度からは高

齢者や身体の不自由な方、子供連れの方などへの移動支援を目的として、土・日・祝日と、イベント期間を中心に園内で電動カートが2台運行している。

馬見丘陵公園の南エリアは築山古墳と隣接し、築山古墳よりも一段高い位置にあることから、南端から古墳の西側面を俯瞰することができる。また、中央エリアと南エリアを連絡する墳観橋からは、前方部を俯瞰することができる。



[出典：奈良県ホームページ]  
図 2-11 県営馬見丘陵公園



南エリアから墳丘西側への眺望



つかみばし  
墳観橋から前方部への眺望



いにしへの丘から墳丘西側への眺望

また各所に四季の花が植えられ、一年を通して花のある景観を楽しめる。特にチューリップ、花菖蒲、ひまわりの季節には開花に合わせて例年イベントが開催されており、冬のクリスマスイルミネーションも恒例となっている。南エリアの「春まちの丘」には早咲きの河津桜が植えられており、いち早く春の訪れをつげる。

〔出典；奈良県ホームページ〕

図 2-12 リーフレット「馬見丘陵公園季節の花時間」より

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ロウバイ		ソメイ白シソ	キリシマツツジ	エゴノキ	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ	タリヤ	コキア(紅葉)	サザンカ		
サザンカ		コブシ	チューリップ	ハナショウブ	サルズベリ						
	ボウ	ハナモモ		バラ		ヒマワリ		バラ			
	ウメ	ミツハツツジ		キンシバイ			ヒガンバナ				
カンツバキ		ユキヤナギ	ヤエキマヅキ	アジサイ		フヨウ・スイフヨウ					カンツバキ
	クロッカス	ヒュウガミズキ	ハナミズキ	ヘメロカリス	ムクゲ			ハナミズキ(紅葉)			
オタフクナンテン(紅葉)		ハクモクレン	ベニバト子ノキ	サツキ	アガパンサス		コスモス	オタフクナンテン(紅葉)			
		シモクレン	キングリリ		コウチノシ		コムラサキ(紅葉)	イロハモミジ(紅葉)			
	マンサク	レンギョウ	イペー・アマレロ	シモツケ				ラクショウ(紅葉)			
	アセビ			ヤマボウシ	ブッドレア			サルビア・レウカンサ			
	サンシュユ			ライラック	スイレン						



図 2-13 リーフレット「馬見丘陵公園の古墳」より (一部加筆)

■竹取公園

広陵町の北西部、真美ヶ丘ニュータウンと寺戸地区、馬見丘陵公園に隣接し、平成6年(1994)に整備された面積約6.5haの都市公園である。竹取公園に隣接する讃岐神社は竹取物語の「竹取の翁」が名を「讃岐造(さぬきのみやつこ)」ということから、これが大和国広瀬郡散吉郷のことであり、このことから、「竹取物語ゆかりの神社」と称されている。公園名も竹取物語をイメージしている。

園内にはみんなの広場やちびっこゲレンデ、ローラー滑り台などの遊具施設があり、多くの子どもたちが集い、近隣住民の憩いの場、健康づくりの場として利用されている。古代住居広場では、広陵町内での発掘調査で見つかった古墳時代の竪穴式住居と竪穴式倉庫が復元されている。

大阪方面からの遠足の名所として有名であるとともに、広陵かぐや姫まつりなどのイベント会場としても認知されている。公園周辺には、歴史資源および図書館があり、人が集まる絶好のエリアとなっている。



竹取公園正面入口



図2-14 竹取公園パンフレット

## 5. 法的規制

法	内 容
文化財保護法	広陵町内の指定文化財は「第4節 歴史的環境」に示す通りである。巢山古墳は、国の特別史跡に指定されている。
都市計画法	<p>広陵町全域の1,633haが都市計画区域(市街化区域：459.1ha、市街化調整区域：1,173.9ha)に指定されている。巢山古墳は、このうちの市街化調整区域に含まれる。</p> <p>隣接する馬見丘陵公園、竹取公園は都市計画公園である。</p> <p>近隣の地区計画では、地場産業の活性化を目的とした産業関連施設の集積等を計画している竹取公園西地区がある。</p>
農業振興地域の整備に関する法律	巢山古墳を含む市街化調整区域の殆どが農業振興地域に指定され、このうち古墳の西側一帯の農地は今後も農業上の用地として利用する農用地区域に指定されている。
景観法	<p>広陵町の全域は奈良県景観計画の景観計画区域に指定されている。中和幹線沿道は広域的・先導的な観点から特に重点的に景観形成に取り組むべき区域である重点景観形成区域の広域幹線沿道区域に、その他の区域は一般区域に指定され、良好な景観の形成に向けた行為の制限等が定められている。</p> <p>また、奈良県自然環境保全条例第27条第1項の規定に基づき、「県の代表的な自然景観を維持するために必要な地区」として馬見丘陵景観保全地区が指定されており、巢山古墳もこれに含まれる。</p>
宅地造成規制法	広陵町全域が宅地造成等工事規制区域に指定され、宅地の造成等に伴う災害が発生しないよう、造成等を行う場合には技術的基準に合致した工事等が必要となる。
防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法	巢山古墳の周濠であるアシ池は、決壊時の影響を考慮して「防災重点農業用ため池」に指定されている。
農業用ため池の管理及び保全に関する法律	巢山古墳の周濠であるアシ池は、「特定農業用ため池」に指定されている。指定要件は、上記特別措置法対象ため池のうち、国又は地方公共団体が所有するもの以外。
森林法	巢山古墳と隣接する讃岐神社境内は、林業の振興や森林が有する諸機能の維持増進を図る必要がある地域として、地域森林計画対象民有林に指定されている。

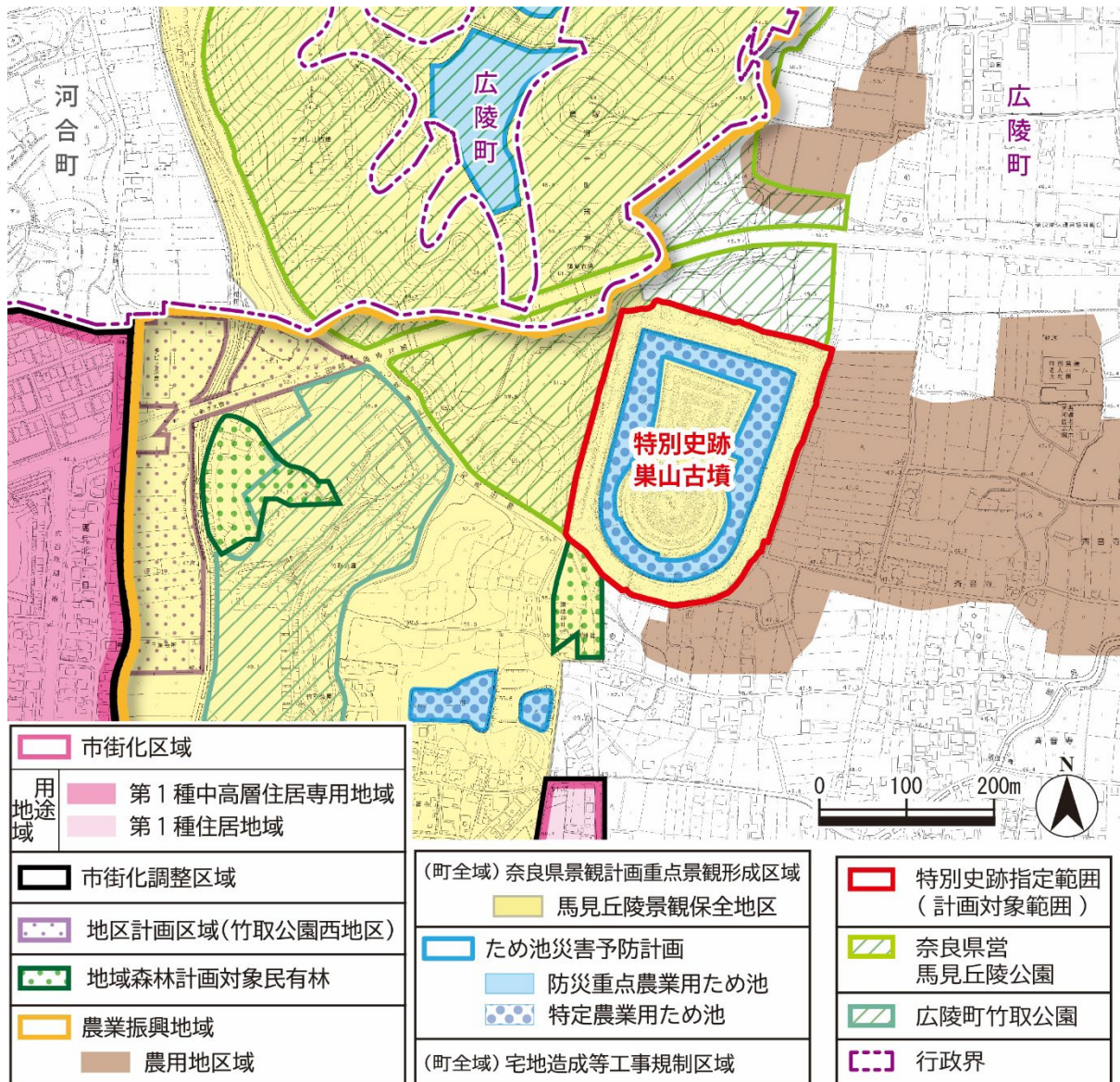


図 2-15 特別史跡築山古墳周辺の法規制図

[出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]

## 第4節 歴史的環境

### 1. 広陵町の歴史

広陵町の歴史は古く、町北部にある箸尾遺跡では旧石器時代の石器が発見されている。縄文時代後期（約4,000年前）以降は箸尾遺跡、古寺タムロ遺跡をはじめ、多くの遺跡が町内で発見されている。弥生時代中期までは馬見丘陵の東斜面に遺跡が営まれ、後期になるとその数は増大していった。曾我川流域を基盤とする集落等が出現し、低湿地部の開発が進んだことがうかがえる。奈良盆地南東部に大和王権が成立した古墳時代には、王権を構成した有力豪族の奥津城として馬見丘陵に数多くの古墳が造られた。

町の西部に広がる馬見古墳群は、2市3町に跨る丘陵地一帯で250基以上の古墳が築かれており、その中でも最大規模で馬見丘陵の中央部に位置するのが築山古墳である。馬見丘陵に古墳が築造された4～5世紀、この地は有力な地方豪族「葛城氏」の支配下にあり、葛城氏の繁栄と衰退とともに古墳の規模も変遷を遂げたという説もある。

古墳時代後期から奈良時代には敏達天皇系の勢力基盤となり、百済大井宮、その子の押坂彦人大兄皇子の成相墓と考えられている牧野古墳、孫の舒明天皇の百済大宮・百済大寺が相次いで造営される。

平安時代、大和国内には15の郡があり、そのひとつが広瀬郡で、現在の広陵町域と河合町によって構成されていた。広瀬郡は東部が平坦な平野で、比較的早くから開発された水田地帯である。この地の大部分は国司が直接支配する国衙領であったが、国衙領内に次々と荘園が設定されていた。この土地でもっとも代表的な荘園は、もとは摂関家領、後に興福寺一乗院領の荘園となる平田荘と長川荘で、特に平田荘は室町時代の資料によれば2295町余りあり、広瀬郡から葛下郡・忍海郡・葛上郡にまたがり、日本各地の荘園でも最大級のものであった。

平安時代後期から大和国は実質的に興福寺によって支配され、興福寺は大和の国司でもあり守護でもあった。中世武士は、土着していた土地を中心に直接農業経営に関わりながら勢力を伸ばし、周辺地域への支配力を浸透させ、その過程で荘園の荘官に任じられることで中央の政治勢力と結びついて政治的な支配力をさらに強めていった。広陵町域では箸尾氏が勢力を持ち、筒井氏と激しい戦いを繰り返した。

南郷地区や古寺地区には、中世に形成され、周囲を濠または堀でめぐらされた環濠集落が現在も残る。

戦国時代の終わりとともに、租税制度が厳しくなったこともあり、大和木綿や菜種、たばこ、茶等の自然条件を生かした特産品の生産、南郷池の築造など大規模な農業用水の確保・整備が行われた。近世を通じて生産力の進展をはかるために数多くのため池が築造された。

明治時代後半からは、靴下・織布等の製造業が栄えはじめ、大正7年(1918)には北部に大和鉄道（現在の近鉄田原本線）が敷設され、箸尾駅が設けられた。

そして昭和30年(1955)に馬見町・瀬南村・百済村が合併して広陵町を発足し、翌昭和31年(1956)に箸尾町を編入、昭和32年(1957)に藤森、池尻が大和高田市へ編入合併されて現在の広陵町となった。

## 2. 指定等文化財

広陵町内には多数の遺跡が分布しているが、中でも馬見丘陵部には、特別史跡巢山古墳や陵墓参考地等の多数の古墳が集中的に分布する。

また、町東部の平野部には、百済寺や与楽寺などの由緒ある寺社が立地し、堂宇や所蔵する仏像等が文化財に指定されている。

表 2-1 指定文化財及び登録文化財一覧

番号	種別	名称等	数量	所在地	指定年月日
<b>国指定文化財</b>					
1	特別史跡	巢山古墳 (古墳時代中期)	一基	広陵町大字三吉	昭和27年3月29日 平成元年1月9日
2	史跡	乙女山古墳 (古墳時代中期)	一基	広陵町大字寺戸、 河合町大字佐味田	昭和31年11月7日
3	史跡	牧野古墳 (古墳時代後期)	一基	広陵町馬見北8丁目	昭和32年6月19日
4	重要文化財 (建造物)	百済寺三重塔 (鎌倉時代後期)	一基	広陵町大字百済 百済寺	明治39年4月14日
5	重要文化財 (彫刻)	木造十一面観音立像	一躯	広陵町大字広瀬 与楽寺	平成17年6月9日
		附 木造十一面観音立像 (鞆仏)	一躯		
		附 鞆仏内納入品 (奈良時代)	一括		
<b>県指定文化財</b>					
1	史跡	三吉石塚古墳 (古墳時代中期)	一基	広陵町大字三吉	平成4年3月6日
2	有形文化財 (建造物)	教行寺本堂、対面所・書院 附 獅子口 附 文久境内指図 (江戸時代)	二棟 二個 一枚	広陵町大字萱野 教行寺	平成19年3月30日
3	有形文化財 (絵画)	板絵著色両界曼荼羅図 (室町時代)	二面	広陵町大字的場 大福寺	昭和61年3月18日
4	有形文化財 (彫刻)	木造十一面観音立像 難陀竜王像 雨宝童子像 (室町時代)	一躯 一躯 一躯	広陵町大字的場 大福寺	昭和42年11月25日
5	有形文化財 (彫刻)	石造浮彫伝弥勒菩薩座像 (平安時代)	一躯	広陵町大字南郷	昭和54年3月23日
6	有形文化財 (彫刻)	木造十一面観音立像 (平安時代)	一躯	広陵町大字古寺 正楽寺	平成6年3月25日
7	有形文化財 (彫刻)	木造弘法大師座像 (室町時代)	一躯	広陵町大字広瀬 与楽寺	平成7年3月22日
8	有形文化財 (書籍・典籍)	瑞夢記 (室町時代)	一卷	広陵町大字的場 大福寺	令和4年3月25日
<b>町指定文化財</b>					
1	史跡	安部山古墳群 (古墳時代後期)	四基	広陵町馬見南2丁目	平成8年3月28日
2	有形文化財 (建造物)	百済寺本堂 (江戸時代)	一棟	広陵町大字百済 百済寺	平成10年3月18日
3	有形文化財 (彫刻)	木造毘沙門天像 附 像内納入印仏 (平安時代)	一躯 一括	広陵町大字南 長泉寺	平成10年3月18日
4	有形文化財 (工芸品)	黒漆塗春日厨子 (室町時代)	一基	広陵町大字広瀬 与楽寺	平成10年3月18日
5	天然記念物	八坂神社 ケヤキの巨樹	一木	広陵町大字古寺 八坂神社	平成8年3月28日
6	民俗文化財	大垣内の立山祭		広陵町大字三吉	平成8年3月28日
7	民俗文化財	天神社の綱打ち		広陵町大字広瀬 天神社	平成10年3月18日
<b>国登録文化財</b>					
1	有形文化財 (建造物)	松本家住宅ほか12件	13件	広陵町大字古寺 299・308	平成9年10月27日

【国指定文化財】



2 乙女山古墳  
[出典：広陵町 HP]



3 牧野古墳  
[出典：広陵町 HP]



4 百濟寺 三重塔  
[出典：広陵町 HP]



5 十一面観音像  
(与楽寺)  
[出典：広陵町 HP]

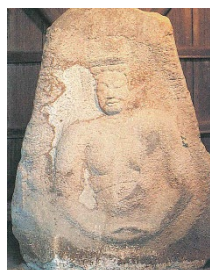
【県指定文化財】



1 三吉石塚古墳  
[出典：広陵町 HP]



4 十一面観音立像  
(大福寺)  
[出典：広陵町 HP]



5 伝弥勒菩薩座像  
(山王神社)  
[出典：文化財と自然  
探訪マップ]

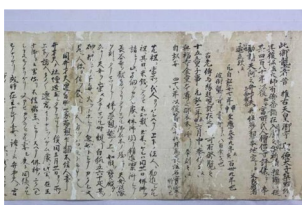


6 十一面観音立像  
(正楽寺)  
[出典：広陵町 HP]



7 弘法大師座像  
(与楽寺)  
[出典：広陵町 HP]

【町指定文化財】



8 瑞夢記  
[出典：奈良県 HP]



1 安部山古墳  
[出典：広陵町 HP]



2 百濟寺 本堂  
[出典：奈良県歴史文化資源データベース]



5 ケヤキの巨樹  
(八坂神社)  
[出典：文化財と自然  
探訪マップ]

【国登録文化財】



1 松本家住宅  
[出典：奈良県 HP]

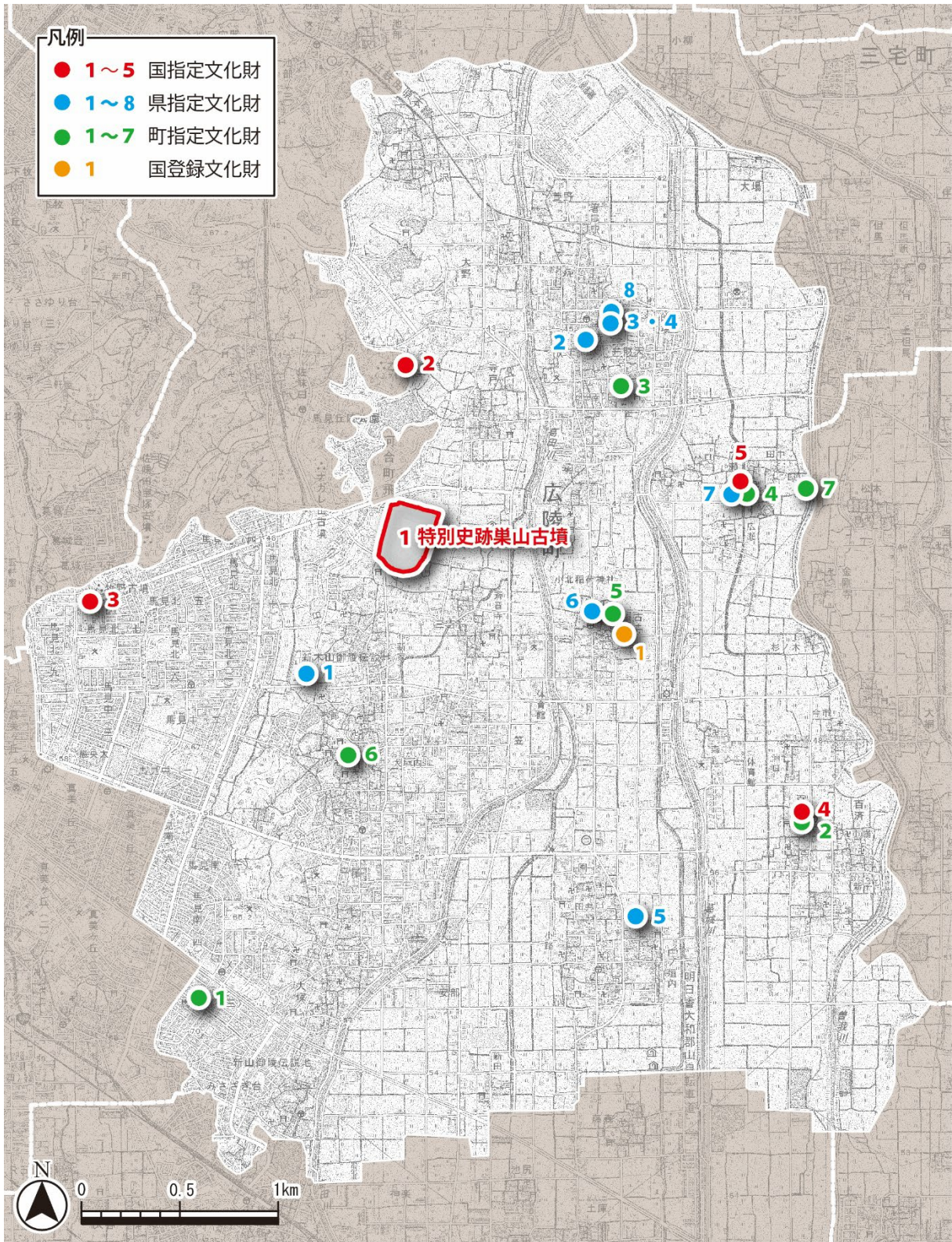


図 2-16 指定文化財位置図 [出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]

### 3. 馬見古墳群

#### 位置と環境

馬見丘陵は、奈良盆地の西部に位置する低丘陵で西は葛下川、東は高田川、北は大和川で限られる南北7 km、東西3 kmの南北に細長い丘陵である。標高65~80mにあり、盆地との比高差は約20mある。第三紀鮮新世から第四紀の更新世に形成された堆積層である。この丘陵の東南部には大型前方後円墳を含む多くの古墳が造られ、佐紀盾列古墳群、大和古墳群と対比され馬見古墳群と総称される。

この馬見古墳群は一般に、大きく3群に分けて理解されている。北群と称される一群は丘陵東北麓、河合町川合付近に位置する全長197mの川合大塚山古墳を中心に100m級の前方後円墳2基と数基の古墳で構成される。丘陵中央部には築山古墳・新木山古墳の200mを越す大型前方後円墳を中心に100m大の前方後円墳と100m未満の前方後円墳、帆立貝式古墳等が築かれている。これらに先行して佐味田川を挟んだ丘陵内部には佐味田宝塚古墳が造られる。南群と称される丘陵の南端部には、馬見古墳群中最古の前方後円墳である新山古墳を中心にする古墳群と全長220mの大型前方後円墳である築山古墳の周辺の古墳で形成された古墳群がある。

しかし、この分け方は墓域を共通するひとつの集団と考えた場合、問題がないわけではない。別所石塚古墳と別所城山1・2号墳、安部山古墳群も墓域をひとつにする古墳群であり、狐井城山古墳・狐井稻荷古墳は丘陵から離れて造られた古墳である。これら馬見古墳群の基礎資料をまとめ、属性を分析し、古墳のグループ分けが試みられているが、ここでは従来の3群として概観する<sup>(1)</sup>。

#### 南群

南群では新山古墳が前期中葉に築かれ、周辺では小地域の首長墓として黒石5号墳が前方後方形を踏襲し、前方後円墳はモエサシ3号墳・黒石東2号墳が築かれる。後期には、これら前期から中期古墳の築かれた丘陵の周辺に円・方墳を営むものと、独立した丘陵上に築かれるものがある。前者は黒石古墳群で、後者には帆立貝式の於古墳と前方後円墳の安部山1号墳があげられる。

築山周辺では築山古墳が前期末~中期初頭に築かれた後、中規模の前方後円墳である狐井塚古墳、大型円墳であるコンピラ山古墳が後続し、小規模な前方後円墳である大谷今池1号墳が築かれる。後期には周辺に葬地を移し領家山古墳群、池田遺跡が営まれている。中・小規模古墳は、新山・築山古墳周辺で前期から後期まで連綿と続く。

#### 中央群

中央群で最も早く築かれるのは前期後葉の別所下古墳・ナガレ山北3号墳等の円墳で、後続する時期に谷を隔てた丘陵上に佐味田宝塚古墳・貝吹山古墳が築かれる。中期初頭には周濠と外堤を備えた大型前方後円墳である築山古墳が出現する。

築山古墳から新木山古墳が築かれるほぼ同時期に墳丘長105mの前方後円墳であるナガレ山古墳が造られ、後続して倉塚・一本松古墳、100m未満のタダオシ・大塚古墳が築かれる。帆立貝式古墳は、築山古墳と密接な関係をもつと考えられる狐塚・三吉2号墳が造られ、中期前葉には乙女山・池上古墳が築かれる。ここでは、ほぼ同時期に同一古墳群中に格差をもつ古墳が存在し、これらの墳形・規模はそれぞれの古墳の被葬者の階層性を表すと考えられ、使用される円筒埴輪の法量にも反映することが明らかとなっている。ここに築山古墳を頂点とする支配体制が確立し

たと考えられている<sup>(2)</sup>。以後、それぞれの階層で二世にわたって造墓が続けられた後この系譜は断絶し、前方後円墳は姿を消す。中期後半には帆立貝式の三吉石塚古墳、方形の文代山古墳、円形の坊塚古墳が築かれ、カタビ古墳群・佐味田石塚古墳群等の小規模な古墳群が数基単位で後期まで続く。後期後半には、三吉一番地古墳・ノノワ古墳群など墳丘盛土を持たない古墳も築かれる。

**北群**

北群は中央群の大型前方後円墳の系譜が途絶えた後、中期後葉の川合大塚山古墳から始まり、続いて中期末葉に100m級の前方後円墳である中良塚古墳、後期前葉の城山古墳へと続く。これらは奈良盆地のなかでも低平地に位置する代表的な大型古墳で、大和川が合流する地点にあり流域を背景に成立する古墳という印象が強い。この立地条件は曾我川を挟んだ東南東1kmにある島の山古墳に共通し、馬見丘陵の中南部の古墳とは別系譜という考え方が示されている<sup>(3)</sup>。

- 註1 河上邦彦 2002「馬見古墳群の基礎資料」橿原考古学研究所研究成果 第5冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 註2 東 潮・坂 靖 1986「佐味田別所下古墳」奈良県遺跡調査概報第1分冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 註3 伊藤勇輔 1985「馬見丘陵の古墳」『日本の古代遺跡6 奈良南部』保育社

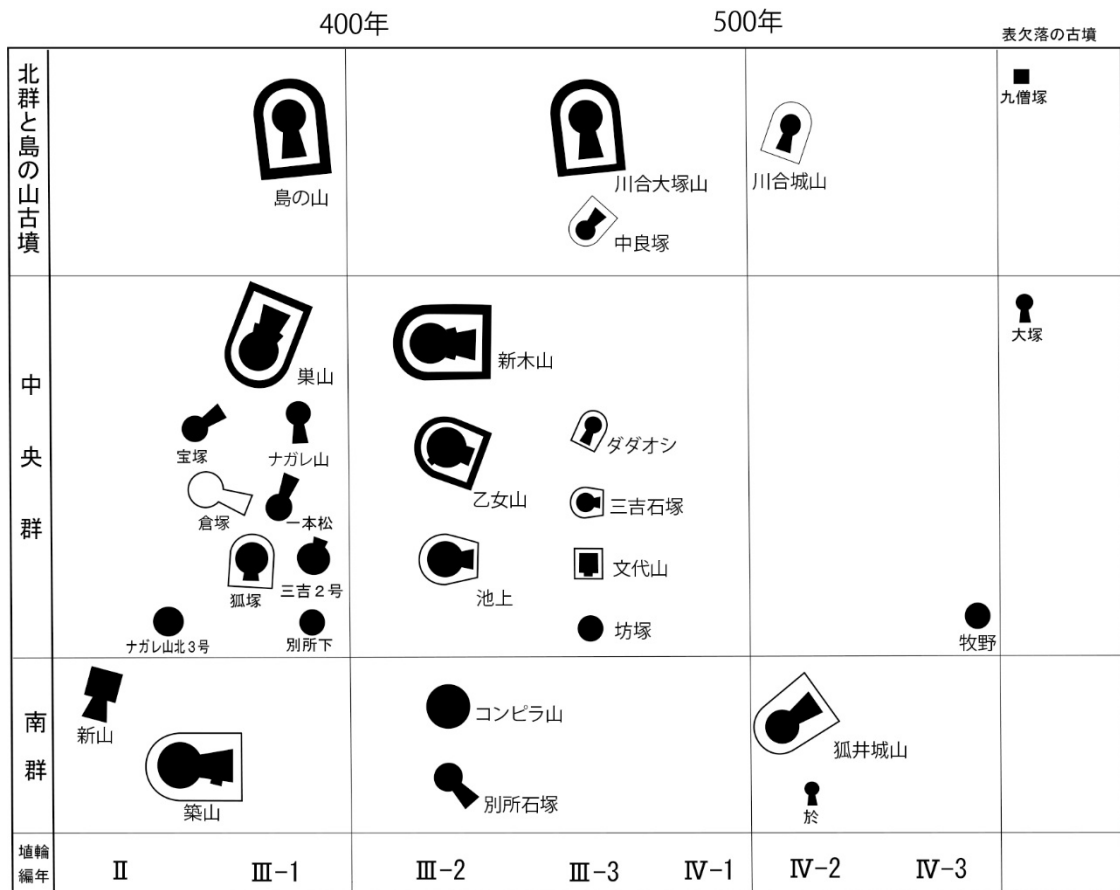


図 2-17 馬見古墳群の編年図

[出典 坂靖 2002「馬見古墳群の円筒埴輪」『馬見古墳群の基礎資料』橿原考古学研究所基礎資料 第5冊]

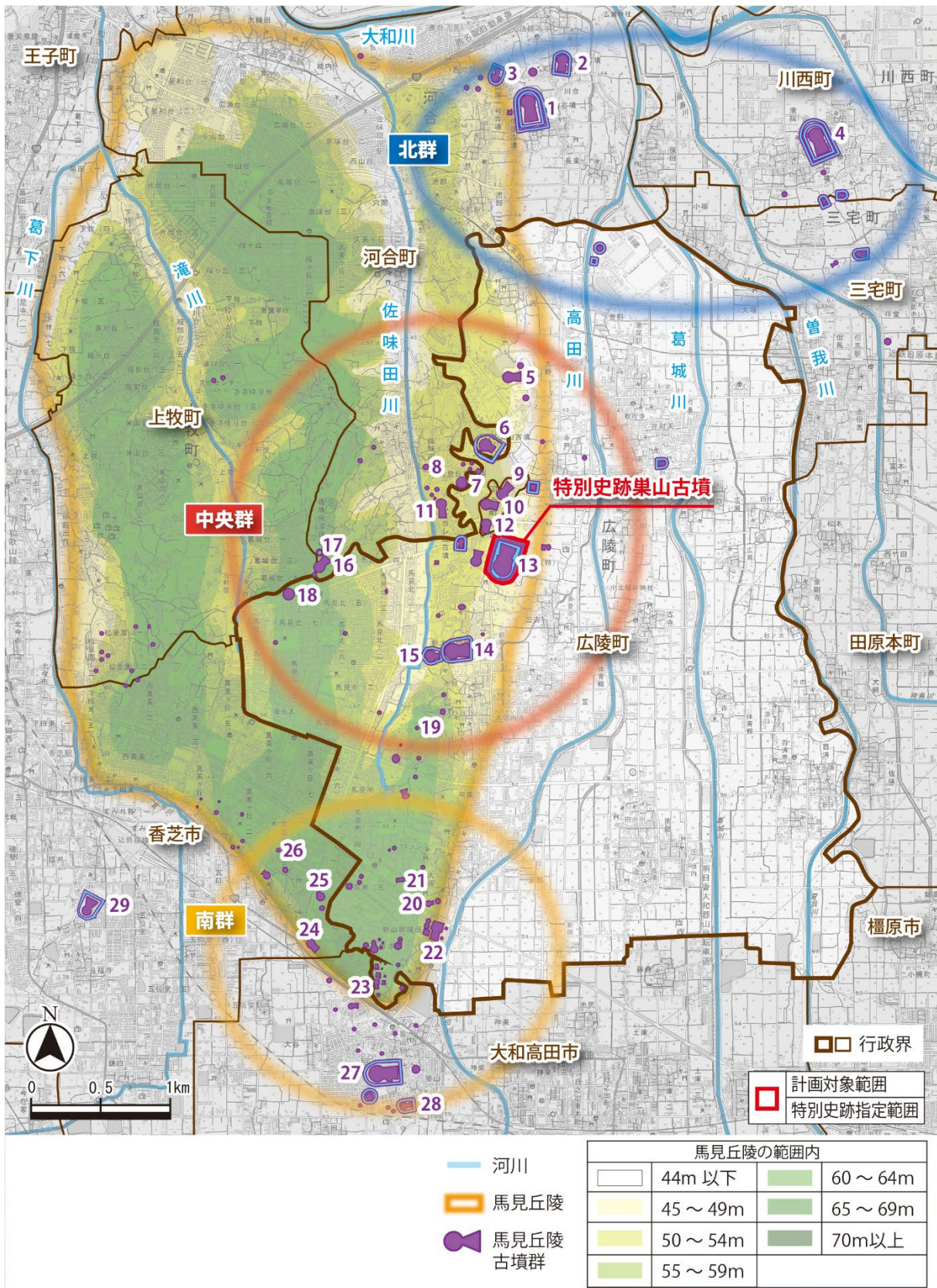


図 2-18 馬見丘陵周辺の主要古墳分布図

[出典：電子地形図(国土地理院)を加工して作成]

表 2-2 馬見丘陵周辺の主要古墳一覧

番号	古墳名	所在地	墳形	時期	概要 (m)					埴輪	副葬遺物	指定等
					全長	後円部径	後円部高	前方部	前方部高			
1	川合大塚山古墳	河合町川合	前方後円墳	中期後半	197	108	15.8	110	16.4	円筒、朝顔、家、蓋、盾形埴輪		○
2	川合城山古墳	〃	〃	中期末	109	60	10.0	73	10.0	埴輪・須恵器		○
3	中良塚古墳	河合町穴闇	〃	中期後半	88	45	6.5	50	6.5	円筒、朝顔、家、蓋、盾形埴輪		○
4	島の山古墳	川西町唐院	〃	前期末～中期初頭	190	98	17.4	93	11.0	円筒、朝顔、家、蓋、軋、盾形埴輪	車輪石80、鍬形石21、石釧32、勾玉、白玉2500、獸形鏡3、合子3、玉類	○
5	池上古墳	広陵町大野	帆立貝式古墳	中期前葉	92	81		32		円筒埴輪		
6	乙女山古墳	河合町佐味田	〃	中期前半	130	103	14.7	52	3.5	円筒、朝顔、壺、家、蓋、楕円形、土師器、須恵器	滑石製勾玉、白玉、刀子形、砥石形、鎌形、紡錘車形模造品	○
7	別所下古墳	〃	円墳		60					円筒、鱗付円筒、朝顔形埴輪		
8	坊塚古墳	〃	〃		60					円筒、家、蓋、短甲、盾形埴輪		
9	一本松古墳	〃	前方後円墳	中期	130	80		80				
10	倉塚古墳	〃	〃	中期前半	180	106	12	70	6.1	円筒棺		
11	ナガレ山古墳	〃	〃	中期初頭	105	64	8.5	70	6.2	円筒、朝顔、壺、家、冑、盾、蓋、楕円形、軋	鉄製品(刀、劍、鍬、鋤先、鎌)玉類(勾玉、管玉、白玉、棗玉)石製模造品(刀子、斧、鉈、紡錘車)土師器須恵器水銀朱	○
12	佐味田狐塚古墳	〃	帆立貝式古墳	前期後半	86	66	7.0	26	5.0	埴輪、須恵器、土師器	鏡、刀子	
13	築山古墳	広陵町三吉	前方後円墳	中期初頭	220	130				円筒、朝顔、壺、家、冑、盾、蓋、柵	鍬形石、車輪石、石釧、勾玉、管玉、棗玉、石製模造品(刀子、斧)	◎
14	新木山古墳	〃	〃	中期前葉	200	117	19	118	17	円筒、家	勾玉、管玉、棗玉	◆
15	三吉石塚古墳	〃	帆立貝式古墳	中期後半	45	41		22	2.5	円筒、朝顔、蓋、短甲、家		△
16	佐味田宝塚古墳	河合町佐味田	前方後円墳	前期後半	112	60	8	45	8	鱗付円筒、家、蓋、盾、短甲、草摺、軋形埴輪	鏡36、鍬形石、車輪石、石釧、石製模造品(刀子34、鑿1、斧1、鎌2、劍2、紡錘車2)、石製合子1、銅鍬28、巴形銅器2、異形石製品	○
17	佐味田貝吹山古墳	〃	前方後円墳?	前期後半	100						鏡7	
18	牧野古墳	広陵町馬見北	円墳	後期後半	48						須恵器、玉類、金環、山梔子玉、馬具類、銀装太刀、鉄鍬	○
19	鴨山古墳	〃 三吉	〃	後期後半							銀環、銀製空洞玉、	
20	於古墳	〃 みささぎ台	帆立貝式古墳	後期前半	37	30		14			鉄製品(刀、劍、鍬、鋤先、鎌)玉類(勾玉、管玉、白玉、棗玉)石製模造品(刀子、斧、鉈、紡錘車)土師器、須恵器、水銀朱	
21	安部山1号墳	〃 馬見南	前方後円墳	後期	42	25	4	20	2	冑、円筒埴輪、	金環、勾玉、紡錘車、刀子、須恵器	□
22	新山古墳	〃 大塚	前方後方墳	前期中葉	126	67	10	66	6	円筒埴輪	鏡34、帯金具、鍬形石1、車輪石1、石釧1、玉類(勾玉127、管玉20)石製鍬、石製品(鍬形、台座形、椅子形)合子1、銅鍬28、巴形銅器2、異形石製品	◆
23	黒石5号墳	〃 みささぎ台	前方後方墳	前期	54	27	5	18	2.2	円筒埴輪片	鏡3、勾玉2、管玉19、ガラス玉17、弮1、銅族30、刀、鉄鍬	
24	別所石塚古墳	香芝市別所	前方後円墳	中期前半	100	45					鉄刀、鉄斧	
25	別所城山1号墳	〃 真美ヶ丘	帆立貝式古墳	中期	42	24		13				
26	長谷山古墳	〃	円墳		10						珠文鏡、管玉、劍、鉈	
27	築山古墳	大和高田市築山	前方後円墳	前期末～中期初頭	210	120		104		円筒、鱗付円筒、朝顔、壺、家、柵形埴輪		◆
28	狐井塚古墳	〃 池田	〃		75	40		40				
29	狐井城山古墳	香芝市狐井	〃	中期末～後期初頭	140	85		110		円筒、朝顔		

指定等凡例：◎特別史跡、○国指定、△県指定、□町指定、◆陵墓参考地